

2020年8月5日

学長 安村 仁志

各地に大被害をもたらした雨もようやく和らぎ、梅雨明けを迎えています。被害地の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の中での災害の様子を見るにつけ心を痛めています。厳しい状況におかれている方々には、大学として経済的な支援もさせていただきますので、いつでもお問い合わせください。

本年度の春学期はコロナ対応のもと、何よりも学生の皆さん及び教職員の健康・安全を優先して、オンライン授業としました。期待を胸に入学した一年生を始め、皆さんには思わぬ事態だったと思います。わたしたちも、入学式を開催できないなど、少なからず戸惑いました。

しかし、ただちに、皆さんの思い・願いをくみ取りながら、オンラインというかたちであっても最善の授業ができるよう教職員挙げて取り組みました。不慣れなところがあったと思いますが、先生方にも懸命にオンライン授業の準備をしていただきました。皆さんも一所懸命受講してくださいました。おかげで、大きなトラブルなく春学期を終えることができそうです。また、今までのところ感染者は出ておりません。皆さんに心より感謝しております。また、ご対応に敬意を表します。

さて、秋学期の授業はどうするかですが、**先般、最大限の防止策を講じながら基本的に通学対面授業とする**の方針をお伝えしました。ところが、その直後から、第二波かと思わせられる感染の再拡大が始まりました。判断が早すぎた、あるいは誤っていなかったか自問を繰り返していますが、今のところは方針を維持したいと思っています。秋学期もオンライン授業を続けると発表する大学も多い中、**どうして本学は独自の方針をとることにしたか、その思いをご説明したい**と思います。

本学は、まず皆さんのさまざまな思い・願いを汲み、何とかそれにお応えできるようにしたいと考えました。

- ・入学式がないまま入学し、その後もキャンパスに入れず、同級生と会う機会もない、先生とも直に会うこともない状態で、日々自宅でPCに向かって孤独な勉学を続けている新入生のつらい思い、早く大学に行って授業を受けたいとの願い
- ・就活の相談・支援、卒業研究の指導を直に受け、確実に卒業したいとの4年生の思い
- ・図書館なども利用しながら、授業・ゼミ活動を通して仲間とともにしっかり教養・専門を身につける学びをしたいとの2年生・3年生の思い
- ・指導教員から直に指導を受け、研究活動をしたいとの大学院生の思い
- ・文化会、体育会などの課外活動もしたいとの思い

繰り返しになりますが、こうした皆さんの願いを叶えたいと思い、通学して対面授業を受けられるようにするとした次第です。しかし、**感染状況が続く限りそれにはリスクが伴いますので、あらゆる配慮をして臨んでまいります**。すべての授業を対面式で行うことは難しいかと思えます。三密を避けるため大規模授業などはオンラインでとなりますが、基本的には大学に来て学んでいただけるようにしたいというのがわたしたちの思いです。そして、秋学期はどうなるのか心配しておられることも考慮し、早めに方向性をお示しすることにいたしました。

とはいえ、大学内で最大限の防止策をとっても、感染するリスクは通学時を含めてあり、不安をもたれる方々もあると思います。それに対する方策も細かく用意しますが、大学生として自身のため、人のため自覚して社会生活を送っていただきたいと思えます。

どうぞ大学の思いをご理解ください。

以上の思いをもとに方針を定めましたが、こうした願いとは別に、**感染状況という現実をも冷静に踏まえない**ければならないと思っています。再び政府から緊急事態宣言が出るようなことになった場合はもとより、状況の悪化に伴って、残念ながら現在の方針を変えざるを得なくなることもあります。その判断は9月初旬に行い、改めてご通知いたします。予めご了承ください。

願いと現実の中で、あくまでも冷静な状況分析をしながら機敏に的確な判断をしております。

来週から夏休みに入りますが、秋学期開講の9月21日まで極力感染予防に心がけてお過ごしください。最後に、学長としての思いをお伝えしたいと思います。

今われわれは、予想だにしなかった困難に直面しています。目に見えないものに立ち向かうことはたやすいことではありません。しかし、逃げ出すわけにはいきません。この先の長い人生に生きるような対応をしたいものです。われわれは大きな試練の中におかれているのだと思います。その試練についてはこんな風に考えています。試練の《試》には二つの意味があります。一つは、《試される》、どう対応するか問われることです。二つ目は、《試す》ということです。困難の中では、今まで考えたことのなかったことにチャレンジし、新たな発見をすることもできます。それはわれわれを成長させてくれることにつながります。そして、試練の《練》ですが、練られて、鍛えられることにつながります。そうしたことを少し考えてみてください。

とはいえ、人間は弱いものです。一人では生きられません。どうぞ、家族の方々、友人(新入生にはこれまでの友人でしょうが)と相談したり、助け合ったりして乗りきってください。書物という相談相手もあります。今は比較的時間があるときかもしれません、人間の知恵・経験が込められていて、多くの人に読まれてきた名著・古典を読んでみてください。

もう一つ。オンライン授業の春学期を過ごし、いろいろな思いを持っておられると思います。なかには「これが大学の本来の授業だろうか」「この先も続くようなことになれば大学で学ぶ意味はあるのだろうか」と思う方もあるでしょう。それらは、講義を聴くということではオンラインでも可能かもしれないものの、やはり大学での学びは通学して友とともに、教員に質問したり直に指導を受けたりしてするもの、課外活動もあつての大学生活ということに立っての思いの反映と受けとめます。自分とは異なるさまざまな学生と刺激を受けながら共に学ぶことの意義を大事にしたいと考えている本学は、本来は通学対面式の授業が基本だと考えています。一方、現在の状態は、戸惑い、疑問を感じながらも全国すべての学生が直面していることです。不本意なことに直面し、やるせない思いを持ちながらそれに対応しなければならないのはつらいことです。しかし、われわれはそこにも何らかの意味があることを思い、正面から立ち向かいたいものでもあります。そして、その時でなくては気づかない意味を知った時、それはその後の力に結びつくわたしは考えます。どうぞ今立ち向かっていることにそれぞれ《意味》を見出してください。そして、希望をもって、本学での学びを続けてください。

本学は、《大学の主人公は学生》を掲げています。あらゆる面で皆さんを応援します。学生—教員—職員それぞれが、それぞれの場面でベストを尽くし(Do our best!)、いい学びを作り上げてまいりましょう。